

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「人物や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりしながら読むこと」、また「文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付け、まとめて書くこと」に課題がある。

○算数では二次元の表から必要な条件を読み取るなど、「資料を読み取り、必要な情報や条件を見出すこと」に課題がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○文章や資料から読み取った内容を踏まえて自分の意見や考えを表現する技能が不十分である。自己調整・自己選択型の学習を取り入れ、自分のペースにあった学習方法を身に付けさせる。

○ICT機器を活用して、数直線や図などを具体的に可視化した情報として児童に提示する。読み取った情報を整理して表現する活動を通して、正しく立式できるよう導く。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

「自分の思い、願い、考えをもち、豊かに表現できる子の育成」

○板橋区授業スタンダードS・Bを基軸にして子どもたちの「読み解く力」の育成をめざした授業を行う。INPUT、THINK、OUTPUTの学習活動から「自分の学習の進め方を自分が選び、決める学習」を実現する。

○基礎・基本の徹底をして、子どもたちにとって分かる授業、楽しさを感じられる授業を行う。そのために「チーム学年」での指導を促進し、教科担任制や副担任制、交換授業等をし、専門性の向上や厚みのある指導体制を築く。モジュールの時間や朝自習、読書などで読み解く力の礎となる学習活動を教科内容と関連付けて補完する。

○「チーム徳丸」、「徳丸愛」を合言葉に、保護者や地域と連携した学習の在り方を開発し、主体的で探究的な学習を行う。「自分の思い、願い、考えをもち、豊かに表現できる子の育成」と「地域のよさを語れる子」の実現を図る。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
授業者は言語活動としての「OUTPUT」までを含めたためあてを板書し、「THINK」の段階では自力解決の時間を確保し、児童が自己決定、自己調整ができる学習を計画的に実施する。	個別の学習計画と、対話的で主体的な深い学びを実現するために、端末の対話的な学習ツールを用いた授業を展開する。	生活科・総合的な学習を中心に、CS委員会、学校地域支援本部、PTA等の地域人材と連携し、地域愛を醸成するための活動を行う。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○スタートカリキュラムと卒園前カリキュラムの連動性を見直し、入学直後の「小1プロブレム」に基づき不安を解消する。 ○義務教育9年間を見通した「板橋のiカリキュラム」をベースに、各教科の指導計画を修正・改善する。 ○校内研究をもとにした授業交流などをを行い、互いの授業力向上と、連続した教育の充実を図る。	○東京都統一体力テストの結果を分析し、子どもたちが「身体を動かす楽しさ」を実感できるよう授業改善をする。 ○児童の実態に合わせて、体を動かすことを楽しめる活動としての体育朝会を計画的に行う。 ○年2回のWEBQUと、年3回のいじめアンケートを確実に実施し、児童の小さなSOSを見逃さない体制を強化する。	○多様な背景やニーズをもつ他者への理解を深め、互いの違いを認め合いながら課題解決や合意形成を図る力を養う。 ○誰にでも分かりやすい授業を実施し、過ごしやすい教室環境を推進する。 ○一人一台端末を活用し、児童が自ら学び方を選択できる「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立させる。